



大末建設株式会社 生産管理部 技術開発室 担当次長 平田吉一様にお話を伺いました。

大末建設について：

当社は、『皆さまの期待に応える作品を提供する会社～「大」きな安心「末」ながく～』をスローガンとする大末ブランドを有し、建築分野を中心に様々な現場の施工の実績があります。（詳細はこちら：<http://www.daisue.co.jp/>）

生産性向上と品質確保：

作業所の業務の効率化・生産性向上に直結するソリューションや現場に限らず業務に直結して効率化が図れる技術の調査・開発をしています。数年前から建築現場毎に進捗確認や月次の報告でドローンは使用していましたが、品質確保の観点で、AEROBO マーカーに興味を持ちました。

杭芯の位置管理と検査にAEROBO マーカーを：

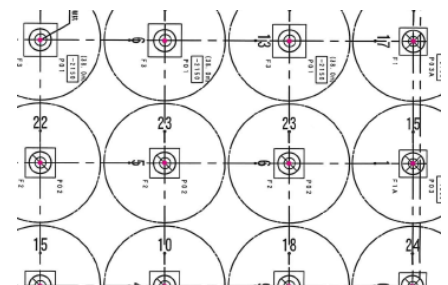
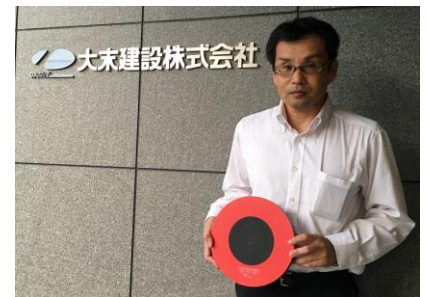
ニーズは、杭芯の位置管理と検査が実施できる事。機器としての条件は、非破壊で正確・安全・安価な手法や機器である事、人為的なミスがない「簡単操作」である事、省人化につながる事、の3つでした。AEROBO マーカーはいずれの条件も満たし、通常2人以上で、通り芯から基準の距離を追い出して、逃げ墨をして、人がテープで実施していた検査を、マーカーを置くだけでXYZの測位をし、5cm以内におさまっていればOK！ということで、これまでの業務を激変させます。

現場の困っているに答えを：

現場で困っているのは建築現場での「墨だし」基準のポイント出しと、それを次のフロアに持っていく際の煩雑さです。AEROBO マーカーを上手に使うことで、機械的に計測をし、墨だしをできれば、現場の作業が圧倒的に効率化できます。ただ、現場はどうしても鉄筋コンクリートで遮蔽物が多いので、GPS計測も安定的に実施したいです。

エアロセンスから大末建設様へ：

ドローン対空標識のみでなく、杭芯の位置管理・検査という新しい使い方を実施いただきありがとうございます。これからもご指導のほどよろしくお願いいたします。



生産管理部 技術開発室 担当次長 平田吉一様（上）
位置計測後のマーカーの位置の判定図面（下）